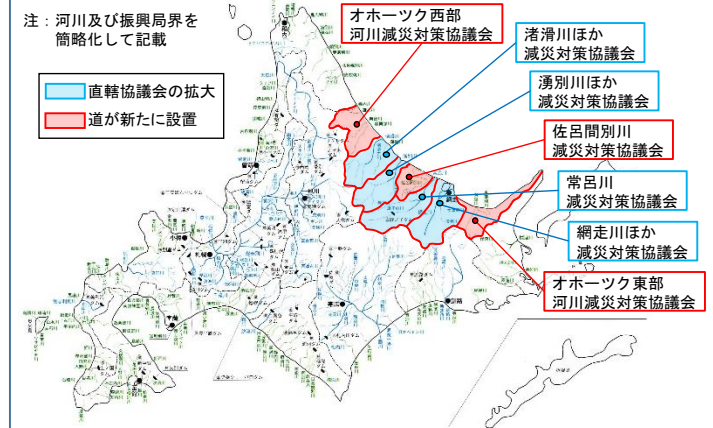


# オホーツク総合振興局における河川減災対策協議会の取組事例

◆ 道管理河川沿川の18市町村において、水位周知河川に指定されていない河川における水害リスク情報を共有するため、想定最大規模の洪水に係る洪水氾濫危険区域図を作成・共有。

## オホーツク管内の協議会位置図

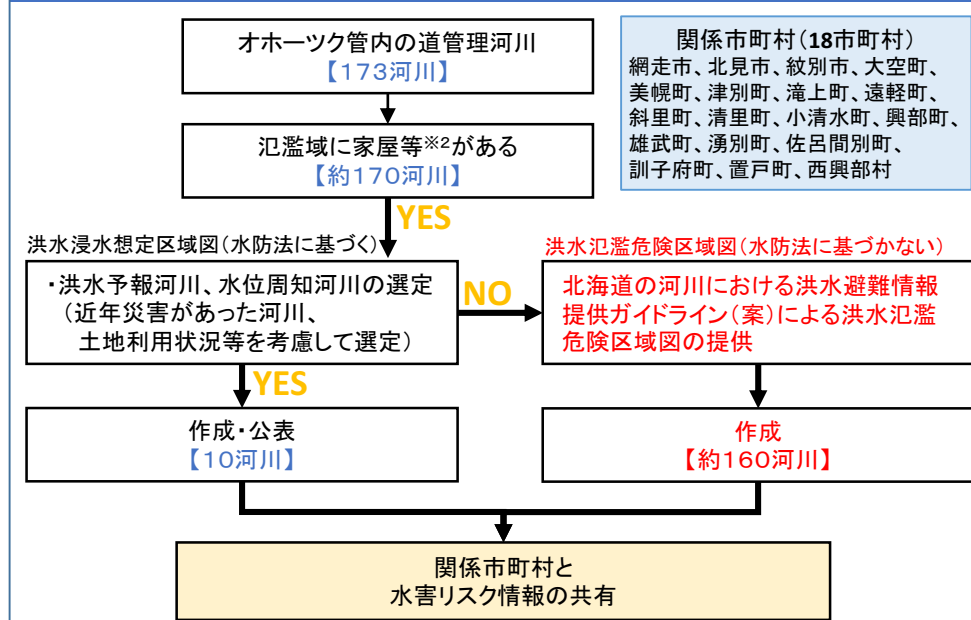


## 洪水氾濫危険区域図の作成・共有の概要

- ハード整備には時間とコストを要することから、洪水時の避難を実効性あるものとする対策として、水害リスク情報の共有が必要。
- 水防法に基づく水位周知河川においては、洪水浸水想定区域図を作成し公表するが、それ以外の河川においても、簡易な手法による氾濫シミュレーション(iRIC※1)を活用した洪水氾濫危険区域図を作成し、市町村と水害リスク情報の共有を順次行っているところ。
- このことにより、大河川だけではなく中小河川の氾濫も考慮した、避難場所や避難経路等の検討が可能となる。

※1：無料で利用することができる、高性能な河川の流れや河床変動、氾濫解析のためのソフトウェア

## 『iRIC』による洪水氾濫危険区域図の作成・共有フロー



※2：人が居住する家屋及び学校・病院・工場・事務所など、浸水時に人的被害が生じる恐れがある建物

## 洪水氾濫危険区域図共有の事例

○ 『iRIC』による洪水氾濫危険区域図を作成し、道管理河川沿川の市町村と水害リスク情報を共有。

